

令和3年度

千葉県交通安全県民運動基本方針



千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」



千葉県・千葉県交通安全対策推進委員会

一 「交通安全県ちば」 確立共同宣言 一

21世紀に生きる私たちは、個々の生命・その輝ける人生を生きる権利を誰もが悲惨な事故によって、奪われることがあってはならないことを心に銘記する必要があります。

車を運転する一人一人は、車は一瞬にして人の命を奪う危険性を持っていることを常に自覚し、幼児から高齢者まですべての人に配慮した安全運転を実践しなければなりません。

- 1 飲んだら乗らない運動を進め、飲酒運転を追放します。
- 2 家庭、学校、地域、職場で、子供と高齢者を交通事故から守る運動を進めます。
- 3 違法駐車並びに夜間の路上駐車防止運動を進めます。

以上3点を重点的に推進し、交通ルールとマナーを守り安全運転を徹底して「交通安全県ちば」を目指すことを宣言します。

【協賛団体】

- (公社) 千葉県食品衛生協会・(公社) 千葉市食品衛生協会・千葉県酒類業懇話会
- (一社) 千葉県経営者協会・(一社) 日本自動車工業会・千葉県自動車販売店協会
- (一社) 千葉県トラック協会・(一社) 千葉県ダンプカー協会
- (一社) 千葉県タクシー協会・千葉県個人タクシー協会
- (一社) 千葉県バス協会・千葉市大型店会・日本チェーンストア協会関東支部
- (株) オリエンタルランド・千葉県交通安全母の会連合会
- (公財) 千葉県交通安全協会・(一社) 千葉県安全運転管理協会
- (一社) 千葉県指定自動車教習所協会・千葉県市長会・千葉県町村会・千葉市

平成13年12月19日

令和3年度 千葉県交通安全県民運動基本方針

令和3年2月2日

千葉県交通安全対策推進委員会決定

第1 目 的

「千葉県交通安全条例」では、人命尊重の理念の下、県民一人一人が主体的に交通安全活動に取り組むことにより、交通事故を撲滅し安全で住みよい「交通安全県ちば」を確立することとしている。

交通事故を防止するためには、県民一人ひとりが交通安全意識の向上を図り、交通ルールを遵守し、正しい交通マナーを実践することが大切である。

令和3年度の千葉県交通安全県民運動は、このような観点に立ち、県民をはじめ、国・県・市町村、企業、団体、NPOや地域の交通安全推進団体がチームスピリットの下、「第11次千葉県交通安全計画（R3～R7※）」で定める抑止目標の達成に向けた交通事故死者数及び交通事故重傷者数の着実な減少を目指し、交通安全対策に取り組むものとする。

※2021～2025年度

第2 期 間

令和3年4月1日（木）から令和4年3月31日（木）まで

第3 主 唱

千葉県交通安全対策推進委員会

第4 運動のスローガン

みんなであつくりよう 交通安全県ちば

第5 運動の内容

令和2年中は、交通事故死者数が128人で、前年と比較して44人減少し、交通事故死者数全国ワースト1位を脱したほか、死傷者数が15,543人で前年と比較して4,533人減少し、第10次千葉県交通安全計画に定める目標数値（死者数150人以下、死傷者数18,000人以下）についても達成した。

しかしながら、交通事故死者数は、依然として全国ワースト上位であることから、令和3年度は、交通事故の発生特徴や、第11次千葉県交通安全計画を踏まえ、最重点活動及び重点活動を定め、年間を通じて行う活動を推進するとともに、期間を定めて行う各季の交通安全運動、さらには交通事故死ゼロを目指す日、交通安全の日（アクション10）などの日を定めて行う運動等を総合的かつ効果的に展開する。

1 年間を通じて行う運動

【最重点活動】

（1）子供と高齢者の交通事故防止

子供の交通事故死者数は昨年1人であったが、依然として次代を担う多くの子供が交通事故により死傷する被害に遭っている。そこで、子供たちが交通社会に適応し、交通事故から自分の身を守ることができるよう、学校関係者等と一体となった参加・体験・実践型の交通安全教育、街頭指導を強化し、交通ルールと正しい交通マナーを身に付けさせるとともに、関係機関と連携した通学路等の安全確保を図るなどにより、子供が関係する交通事故を防止する。

高齢者の交通事故死者数は昨年74人と前年より16人減少したが、死者総数に占める高齢者の割合は57.8%であり、依然として高い水準で推移している。状態別では歩行中が37人と高齢事故死者全体の50%であり、そのうち73.0%が道路横断中の事故であることから、高齢

者の身体機能や認知機能の変化を踏まえた体験型交通安全教育、高齢者宅の訪問活動による交通安全教育や各種活動を通じた反射材着用の普及促進など、地域ぐるみで高齢者事故防止対策を展開するとともに、全ての運転者に対して「子供や高齢者」に思いやりをもった安全運転の励行と交通安全意識の向上を図る。

また、昨年は全死亡事故125件のうち36件（28.8%）が高齢運転者（第1当事者が四輪、二輪）によるもので、加齢に伴う身体機能や認知機能の変化が運転に及ぼす影響などを認識させる参加・体験・実践型高齢者講習の実施、運転免許の自主返納制度及び自主返納者に対する支援措置、運転適性相談窓口や安全運転相談ダイヤル（#8080）等に関する周知を図るなど、高齢運転者対策を推進して事故を防止する。

（２）交差点等での交通事故防止

道路形状別で交通死亡事故統計を見た場合、交差点及び交差点付近での発生について、昨年は62件と前年より30件減少したものの、死亡事故全体の49.6%を占めている。

このことから、自転車を含めた運転者には交差点通過時及び右左折時に伴う事故の危険性を十分認識させ、運転の基本である安全確認と歩行者保護の徹底を図る。また、歩行者側に対しても信号無視や車両の直前直後の横断など交通違反が見られることから、交通ルールの遵守、道路横断時の安全確認を徹底させる等の安全教育を推進するなど、道路を利用するあらゆる立場の人に対し、交通事故防止対策の充実を図る。

特に、昨年の歩行中死者54人中37人（68.5%）が道路横断中の事故であり、そのうち、15人が横断歩道上及びその付近で事故に遭っていることから、歩行者保護意識の高揚に向け、広報啓発用動画等を活用して、「ゼブラ・ストップ活動」（注1）を一層推進し、車の運転者に横断歩道における歩行者等の優先義務を徹底することにより、道路横断中の交通事故防止を図る。

（３）夕暮れ時や夜間・明け方における交通事故防止

昨年の夜間における交通死亡事故は125件中62件であった。また、明け方や夕暮れ時（日の出・日の入の前後1時間を含む）の交通死亡事故は125件中32件であり、特に高齢歩行者が買い物や散歩中に道路を横断して被害に遭うケースが多い。

このことから、高齢者をはじめとする歩行者等には「キラリアップ☆ちば」（注2）による反射材着用の普及促進を図るとともに、車の運転者に対しても「3・ライト運動」（注3）等を周知させて注意を喚起し、夕暮れ時や夜間・明け方における歩行者等の交通事故防止を図る。

（４）自転車の安全利用の推進（特に、「ちばサイクルール」（注4）の周知徹底）

自転車乗用中の死者は昨年22人と前年より2人減少したものの、交通事故全体に占める自転車事故の割合は25.1%と前年と比較して0.4ポイント高く、事故件数が減少する一方で自転車事故の割合は上昇している。

平成29年4月1日に施行された「千葉県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」の周知を一層図るとともに、5月の「自転車安全利用推進強化月間」及び毎月15日の「自転車安全の日」を重点に、自転車利用者への街頭啓発や指導取締りを実施するほか、各種講習会等を通じて、千葉県自転車安全利用ルール「ちばサイクルール」を活用した交通ルールの遵守や交通マナーの向上を促進し、自転車利用者による危険・迷惑行為の防止と自転車の事故防止を図る。

さらに、九都県市（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市の関東地方南部の一都三県と五政令指定都市）と連携した自転車マナー向上のための取組を実施する。（九都県市一斉自転車マナーアップ強化月間）

(5) 後部座席を含めた全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

昨年の四輪乗車中の事故死者38人中20人(52.6%)はシートベルト非着用であり、シートベルト着用の有無が、死亡事故の大きな要因となっている。また、一般道路における後部座席のシートベルト着用率が41.1%(一般道)と未だ低い(令和2年のJAFと警察の合同調査)ことから、事故時におけるシートベルト及びチャイルドシートの被害軽減効果の周知並びに全席シートベルト着用とチャイルドシートの正しい着用の徹底を図る。

特に、6月を「シートベルトとチャイルドシート着用推進強化月間」と定め、街頭啓発活動等を集中的に展開する。

(6) 飲酒運転の根絶

昨年の飲酒事故(第1当事者が原付以上で基準値以下等含む。)は133件発生し、うち事故死者は8人と前年より5人減少するなど、一昨年の飲酒運転による死亡事故ワースト1位については解消されたものの、未だ飲酒運転の根絶には至っていない。

県内では、これらの厳しい情勢を踏まえ、警察署、市町村、関係団体等が連携して設立した飲酒運転根絶協議会を中心に、飲酒運転根絶のための啓発活動を行っているほか、各事業所においても「飲酒運転根絶宣言」を発信するなどして自主的な取組みを展開しており、今後も、これを更に活性化させ継続的に推進する。

また、今年度は、昨年度に新たに立ち上げた飲酒運転根絶部会で検討された分析結果等を活用するとともに、地域、職場、家庭等において飲酒運転の悪質性・危険性、飲酒運転に起因する交通事故の悲惨さを浸透させ規範意識の醸成を図るために、昨年度に引き続き「その一杯 愛車も走る凶器に 早変わり」を県の統一スローガンに掲げ、飲酒運転のない環境づくりを促進する。

[重点活動]

(1) 悪質な違反・危険運転の防止、暴走族の追放

速度超過、信号無視や妨害運転などの悪質・危険な運転は、重大事故につながる要因であることから、悪質・危険な違反に重点指向した指導取締りを徹底し、悪質・危険運転者の排除を図る。

また、携帯電話等を使用しながら運転している、いわゆる「ながら運転」などの迷惑運転についても、取締りと並行して交通事故に直結する危険性などの広報啓発活動を推進する。

暴走族は、グループ数・構成員ともに減少傾向にあるものの、依然として110番通報は1,000件を超えるなど集団暴走により付近住民に不安と迷惑を与えている上、少年非行の温床となっていることから、県民生活の安全と平穏のため、行政・学校関係・事業者等が一体となって、①暴走行為等の防止、②暴走族への加入防止、③暴走族からの離脱の促進など暴走族等の追放に関する活動を実施する。

(2) 外国人に対する広報啓発活動の推進

日本に在住する外国人や観光などで日本を訪れる外国人に、日本の交通ルールを理解してもらうため、主要国言語に対応したリーフレットを活用した広報啓発活動を推進する。

本年は、延期された2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会が行われることから、外国人に対する広報啓発を実施する。

(3) 違法駐車等の追放

違法駐車は交通の渋滞や重大な交通事故に直結する要因であることから、違法駐車等の危険性・迷惑性についての認識を定着化させ、駐車秩序の確立を図る。

2 期間を定めて行う運動

(1) 四季の運動

運動名	期 間	内 容
春の全国交通安全運動	4月6日（火）から 4月15日（木）まで	全国一斉の交通安全運動の一環として、別に定める「令和3年春の全国交通安全運動千葉県実施要綱」に基づき実施する。
夏の交通安全運動	7月10日（土）から 7月19日（月）まで	夏休み及びオリンピック等の実施に鑑み、別に定める「令和3年夏の交通安全運動実施要綱」に基づき実施する。
秋の全国交通安全運動	9月21日（火）から 9月30日（木）まで	全国一斉の交通安全運動の一環として、別に定める「令和3年秋の全国交通安全運動千葉県実施要綱」に基づき実施する。
冬の交通安全運動	12月10日（金）から 12月19日（日）まで	年末の交通事故が増加する時期に鑑み、別に定める「令和3年冬の交通安全運動実施要綱」に基づき実施する。

(2) 強化月間

運動名	期 間	内 容
自転車安全利用推進強化月間	5月 1日（土）から 5月31日（月）まで	自転車利用者に対するルール遵守の徹底に重点をおいた広報活動等を実施する。
シートベルトとチャイルドシート着用推進強化月間	6月 1日（火）から 6月30日（水）まで	シートベルトとチャイルドシートの着用徹底に重点を置いた広報活動等を実施する。

3 日を定めて行う運動

(1) 交通事故死ゼロを目指す日（4月10日（土）、9月30日（木））※予定

4月10日と9月30日を「交通事故死ゼロを目指す日」とし、交通安全に対する県民の更なる意識の向上を図り、県民一人一人が交通ルールを守り、交通マナーを実践するなど交通事故に注意して行動することによって、交通事故の発生を抑止し、もって、近年の交通事故死傷者数の減少傾向を確実なものにする。

(2) 交通安全の日～アクション10～（毎月10日）

千葉県交通安全条例第3条に定める「交通安全の日」に、県民のすべてが交通安全についての関心を深めるとともに、交通安全に関する活動を実践する意欲を高めるため、「ゆずりあう 心で走る ちばの道」をスローガンに、各機関・団体が、地域ごとに連携した各種交通安全対策（広報啓発活動・街頭指導等）を一斉に展開することにより交通事故の防止を図り、「交通安全県ちば」を確立する。

(3) 自転車の安全利用推進運動（毎月15日）

毎月15日を「自転車安全の日」と定め、千葉県自転車安全利用ルール「ちばサイクルール」による自転車のルールとマナーを普及啓発するとともに、秩序ある駐輪の徹底を図るための活動を展開する。

(4) 違法駐車等追放運動（毎月20日）

毎月20日を「クリーンロードの日」と定め、違法駐車悪質性・危険性・迷惑性に関して啓発し、地域・職場・家庭等で違法駐車追放の気運を醸成する活動を展開する。

第6 運動の推進方法

各機関・団体においては、互いに連携を密にし、前記第5に掲げた運動が県民一人一人に定着し、県民が参加しやすい交通安全活動ができるよう実施計画を作成し、効果的な交通安全運動を展開する。

【各機関・団体の主な推進事項】

機関・団体名	主 な 推 進 事 項
共通	<ul style="list-style-type: none"> ① 自転車条例、道路交通法その他交通関係法令等の周知及び遵守 ② 飲酒運転や妨害運転など、悪質・危険な運転者を排除するための広報啓発活動の推進 ③ 千葉県自転車安全利用ルール「ちばサイクルール」の普及啓発 ④ 「3・ライト運動」及び「ゼブラ・ストップ活動」の推進 ⑤ 携帯電話を使用しながらのいわゆる「ながら運転」など、危険性、迷惑性の高い行為を防止するための広報啓発活動の推進 ⑥ 「キラリアップ☆ちば」による反射材の普及・着用促進に向けた広報啓発活動の推進 ⑦ 運転免許の自主返納制度の周知及び自主返納者に対する支援措置の拡充 ⑧ 衝突被害軽減ブレーキ及びペダル踏み間違い時加速抑制装置等が搭載された、セーフティ・サポートカーS（略称：サポカーS）の普及促進 ⑨ 外国人に対する広報啓発活動の推進 ⑩ 実施に当たっては、新型コロナウイルス感染を防止する対策を徹底
県	<ul style="list-style-type: none"> ① 横断幕等・立て看板・のぼり旗の掲示やWEBサイト、テレビ・広報紙等のあらゆる広報媒体の活用による広報 ② チーバくんやシンボルマークを活用した啓発物等の作成配布や交通安全ライブラリー事業による交通安全啓発 ③ 広報車による街頭啓発活動、各種啓発キャンペーンの実施 ④ 自転車安全教室等各種交通安全教室の開催、講習会等への講師派遣及び交通安全推進隊の活動支援 ⑤ 交通事故相談所の運営及び自転車事故被害者の救済に資するための各種保険制度の普及啓発
市町村	<ul style="list-style-type: none"> ① 横断幕等・のぼり旗、ホームページ、安全安心メール、広報紙等あらゆる広報媒体の活用による広報 ② 広報車・防災無線等を活用した、住民に知らせる活動の強化 ③ 街頭啓発活動、各種啓発キャンペーンの実施 ④ 会議・庁内放送等による運動の周知 ⑤ 交通安全教室・講習会等の開催

機関・団体名	主 な 推 進 事 項
警察	<ul style="list-style-type: none"> ① 街頭活動・交通指導取締り ② 参加・体験・実践型交通安全教育 ③ 自転車安全利用対策 ④ 総合的な高齢者交通事故防止対策 ⑤ 各種広報媒体を活用した官民一体の広報啓発 ⑥ 交通事故発生状況及び交通危険箇所に関する情報並びに交通関係法令改正等の情報発信 ⑦ 交通安全施設の点検整備
道路管理者	<ul style="list-style-type: none"> ① 交通安全施設の点検整備 ② 道路放置物、道路の不法占用物件等の排除 ③ 交通危険箇所の改善 ④ 道路情報板による交通安全啓発に関する広報 ⑤ 自転車利用環境の整備
教育委員会 学校 教育関係団体	<ul style="list-style-type: none"> ① 歩行中、自転車・二輪乗車中の実技指導等について幼稚園、小学校、中学校、高校、特別支援学校の各年代に応じた交通安全教育 ② 登下校時の交通安全推進隊等との連携による街頭指導 ③ 自転車マナーアップ隊による街頭指導 ④ スクールゾーンや通学路等の安全な通行を確保するため、関係機関と連携した交通安全対策 ⑤ 児童・生徒によるポスター等の作成を通じた交通安全意識の醸成
運輸支局 運輸関係団体	<ul style="list-style-type: none"> ① 不正改造車、整備不良車の排除 ② 車両の適正な管理及び点検整備 ③ 過積載、過労運転運行の防止及び運転前飲酒検査などによる悪質・危険な運転の防止 ④ 各種講習会の開催による運動の周知 ⑤ シートベルトコンビンサーの派遣、車内広告・マグネットシート等による啓発
鉄道事業者	<ul style="list-style-type: none"> ① 踏切・保安設備の点検整備 ② 視野障害物件の除去 ③ 踏切での「一時停止・安全確認」及び緊急時の措置等に関する広報・啓発 ④ 駅構内・車内における放送とポスターの掲示等による広報
交通安全協会	<ul style="list-style-type: none"> ① 横断幕等・のぼり旗、ホームページ、広報紙、啓発物の作成配布等あらゆる広報媒体の活用による広報 ② 広報車等による街頭啓発活動、各種啓発キャンペーンの実施 ③ 子供、高齢者に対する通行方法指導等の交通安全教室 ④ 自転車安全教育事業の拡充（ヘルメット着用の推進） ⑤ TSマーク付帯保険の周知 ⑥ シートベルトコンビンサー・運転適性診断車の派遣による交通安全指導及びハンドルキーパー運動 ⑦ 二輪車事故防止のための交通安全講習の開催

機関・団体名	主 な 推 進 事 項
安全運転管理協会	① 横断幕等・のぼり旗の掲示や広報紙等あらゆる広報媒体の活用による広報 ② 安全運転管理者等講習及び研修会等を活用した交通安全教育 ③ セーフティドライバーズちば2021 (123日間無事故・無違反)運動の周知 ④ 運転適性検査の実施並びに運転適性検査機器及びDVDの貸出しによる交通安全指導 ⑤ 運行前点検及び乗務員の飲酒検査等による危険運転の防止
交通安全母の会	① 地域の各種行事における交通安全啓発 ② 交通安全に関する啓発物等の作成配布 ③ 通学路等における街頭指導 ④ 高齢者宅訪問事業
その他の千葉県交通安全対策推進委員会委員(構成機関・団体)	① 広報誌(紙)・社内放送・朝礼・会議等における運動の周知 ② 横断幕・ポスター・のぼり旗等の掲示による広報 ③ チーバくんやシンボルマークを活用した啓発物による交通安全啓発 ④ 地域における交通安全関係行事への参加協力

注1:「ゼブラ・ストップ活動」※歩行者保護をわかりやすくまとめた名称。

【①ゼ(前方)②ブ(ブレーキ)③ラ(3ライト)④ストップ】

注2:「キラリ☆アップちば」※反射材を普及促進するための名称。

【①キ(危険を回避)②ラ(ライト・アップ)③リ(リフレクター(反射材)やLEDライト)④アップ☆ちば(千葉県全体でキラリと光る星のように反射材の着用率をアップ)】

注3:「3ライト運動」※道路横断中の事故防止をわかりやすくまとめた名称。

【①ライト(前照灯)②ライト・アップ(目立つ)③ライト(道路右側からの横断者に注意)】

注4:「ちばサイクルール」※自転車に乗る時のルール。

【自転車に乗る前のルール】 【自転車に乗るときのルール】

- | | |
|--------------|----------------|
| ① 自転車保険に入ろう | ① 車道の左側を走ろう |
| ② 点検整備をしよう | ② 歩いている人を優先しよう |
| ③ 反射器材を付けよう | ③ ながら運転はやめよう |
| ④ ヘルメットをかぶろう | ④ 交差点では安全確認しよう |
| ⑤ 飲酒運転はやめよう | ⑤ 夕方からライトをつけよう |

交通安全ライブラリー

交通安全教育ビデオを貸し出しています（無料貸出し、但し返送料は負担願います。）。学校、こども会、保護者会、町内会、老人クラブ、職場研修、ドライバー講習会等で行われる交通安全教室、講習会、研修会等にご利用ください。

申し込みは、お電話で下記申し込み先までお願いいたします。

No.	名称	郵便番号	所在地	電話番号
1	千葉県環境生活部 くらし安全推進課	〒260-8667	千葉市中央区市場町1-1	043-223-2263
2	葛南地域振興事務所	〒273-8560	船橋市本町1-3-1 フェイスビル7階	047-424-8281
3	東葛飾地域振興事務所	〒271-8560	松戸市小根本7 東葛飾合同庁舎5階	047-361-2111
4	印旛地域振興事務所	〒285-8503	佐倉市鍋木仲田町8-1	043-483-1111
5	香取地域振興事務所	〒287-8502	香取市佐原イ92-11	0478-54-1311
6	海匝地域振興事務所	〒289-2504	旭市ニ1997-1	0479-62-0261
7	山武地域振興事務所	〒283-0006	東金市東新宿17-6	0475-54-0222
8	長生地域振興事務所	〒297-8533	茂原市茂原1102-1	0475-22-1711
9	夷隅地域振興事務所	〒298-0212	夷隅郡大多喜町猿稻14	0470-82-2211
10	安房地域振興事務所	〒294-0045	館山市北条402-1 安房合同庁舎2階	0470-22-7111
11	君津地域振興事務所	〒292-8520	木更津市貝淵3-13-34 君津合同庁舎内	0438-23-1111

千葉県交通安全教育推進員派遣制度

交通安全教育推進員派遣制度は、交通事故から自分の身を守るためにはどうしたらよいか、どんなことを心がけたらよいかなど、交通安全指導・教育のため、千葉県知事の委嘱を受けた講師を派遣するものです。

交通安全教室、講習会、研修会などの際にご活用ください。対象者に合わせて経験豊富な推進員の派遣を調整いたします。

なお、講師料は無料ですが、講師の交通費等については、実費負担願います。

詳しくは、下記までお問い合わせください。

※ **新型コロナウイルス感染症等の影響で派遣を中止する場合があります。**

《申込み先及び問い合わせ先》

千葉県環境生活部くらし安全推進課
所在地 千葉市中央区市場町1-1
電話番号 043-223-2263

交通事故相談所の案内

千葉県交通事故相談所では、交通事故に遭ってお困りの方のために、専任相談員による交通事故相談を行っています。

また、臨床心理士による心の相談（本所のみ。要予約。）についても月に1回行っていますので、お気軽に御利用ください。

※相談時間 午前9時～12時、午後1時～5時（土、日、祝日及び年末年始を除く）
（受付は午後4時30分まで）

※新型コロナウイルス感染症等の影響で、相談業務を変更・中止する場合があります。

名 称	所 在 地 お よ び 電 話 番 号
本 所	〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1 千葉県庁本庁舎2階（TEL 043-223-2264）
東葛飾支所	〒271-8560 松戸市小根本7 東葛飾合同庁舎4階（TEL 047-368-8000）
安房支所	〒294-0045 館山市北条402-1 安房合同庁舎1階（TEL 0470-22-7132）

なお、一部市町村への巡回相談も行っていますので、詳しくはホームページを御覧いただくか、上記相談所等へお問い合わせください。

* 千葉県ホームページ <http://www.pref.chiba.lg.jp/seikouan/soudan/jiko/index.html>

「ゼブラ・ストップ」で交通事故ストップ！

○「前方」

「前方」をよく見て安全運転、横断歩道を発見したら、その周りに歩行者等がないか十分注意

○「ブレーキ」

横断歩道の手前では、「ブレーキ」操作で安全確認、渡ろうとする歩行者等がいるかも知れない場合は、横断歩道の手前で停まれる速度で進もう。

○「ライト」

- ・横断歩道でも「3（サン）・ライト」で交通事故防止
 - ・車の「ライト」早めの点灯、小まめな切り替えで横断者を早期発見
 - ・横断者も反射材等で「ライト」アップ
- 「ライト」（右）からの横断者にも注意



発行

千葉県交通安全対策推進委員会事務局
（千葉県環境生活部くらし安全推進課）
〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1
TEL 043-223-2263
FAX 043-221-2969